

# 国立国会図書館月報

- 稀本あれこれ-439-
- 長洲縣魚鱗冊康熙十五年丈量 清写 一冊  
ヒマラヤ山麓のかけがえない文書遺産を護るために  
—ネパール出張報告— =村山 隆雄 ・ 1
- ネパール国立図書館職員のための研修事業  
—国際協力機構と国際図書館連盟資料保存コア活動アジア  
地域センターの協力— =那須 雅熙 ・ 10  
館内スコープ ・ 12  
常設展示のお知らせ ・ 12
- レファレンス協同データベース実験事業  
—第2期参加館募集のご案内— ・ 13  
<ご案内>  
国際セミナー「デジタル時代のドキュメント・デリバリー・  
サービス：ビジョンと戦略」 ・ 17  
<お知らせ>  
東京本館の新しい開館日・開館時間等について ・ 18  
新連載が始まります テーマは「電子図書館」 ・ 18  
本屋にない本 ・ 19  
NDL news ・ 20  
月例報告 ・ 21  
国立国会図書館の編集・刊行物 ・ 21
- 国立国会図書館年報（平成15年度）から  
—統計を中心に その1— ・ 25  
（海外出張報告）
- 欧米で見た来館利用者サービスの今  
—入館から閲覧までの流れを中心に— =久永 茂人 ・ 30  
国際子ども図書館のページ ・ 31
- 本を魅せる 常設展示案内(9)  
ユートピア—どこにもない場所— ・ 32

9

2004

No. 522

# 国立国会図書館利用案内

東京本館 〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1

電話 03 (3581) 2331

来館利用案内 (自動応答) 電話 03 (3506) 3300 (音声サービス)

電話 03 (3506) 3301 (FAX サービス)

関西館 〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台8-1-3

電話 0774 (98) 1200 (音声サービス)

ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>

**利用できる人** 満18歳以上の方

**資料の利用** 館内利用のみ。館外への帯出はできません。

**開館日** 月曜日から土曜日

**休館日** 日曜日、国民の休日・祝日、年末年始、資料整理休館日 (第3水曜日)

**所蔵資料** 当館の所蔵資料は、納本、購入、国際交換、寄贈等によって収集され、東京本館、関西館、国際子ども図書館に分散して配置されています。

<東京本館のおもな資料>和洋の図書、和雑誌、洋雑誌 (年刊誌、モノグラフシリーズの一部)、和洋の新聞、各専門室資料

<関西館のおもな資料>和図書・和雑誌・新聞の一部、洋雑誌、アジア言語資料・アジア関係資料 (図書、雑誌、新聞)、科学技術関係資料、文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書、博士論文

## ----- 東京本館のサービス時間 -----

**開館時間** 月～金曜日 9:30～19:00 土曜日 9:30～17:00

※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室、古典籍資料室の開室時間は17:00までです。

**資料請求時間** 月～金曜日 9:30～18:00 土曜日 9:30～16:00

※ただし、音楽・映像資料室、人文総合情報室特別コレクション、憲政資料室および古典籍資料室の資料請求時間は16:00までです。

**即日複写受付** 月～金曜日 10:00～18:00 土曜日 10:00～16:00

**後日複写受付** 月～金曜日 10:00～18:30 土曜日 10:00～16:30

**オンライン複写受付** 月～金曜日 10:00～17:30 土曜日 10:00～15:30

## ----- 関西館のサービス時間 -----

**開館時間** 10:00～18:00 **即日複写受付** 10:00～17:00

**資料請求時間** 10:00～17:15 **後日複写受付** 10:00～17:45

**セルフ複写受付** 10:00～17:30 **オンライン複写受付** 10:00～17:00

※詳しくは当館ホームページをご覧ください。



長洲縣魚鱗冊康熙十五年丈量 清写 一冊

本書は夙に、鶴見尚弘氏によって紹介されているが、研究者の間では周知されているものの、一般にはほとんど知られておらず、氏の紹介には図版がなかったののでここで改めて取りあげることとした。

魚鱗冊とは、中国宋代以後、主として租税を賦課するために作成された官簿で、魚鱗図冊、流水魚鱗冊とも言う。この変わった名称の由来は、『明史』巻七十七、「食貨志」一にも見え、なかに収められている坪形図が図3のように一筆ごとに区切られており、その様子がちょうど魚の鱗のようだったのでこのように呼んだ。

魚鱗冊の体裁は、基本的には全体説明、総字坪形図、一丘ごとの魚鱗の図を記入した坪形図および一丘ごとの土地台帳本文の四部から成る(坪、丘ともに土地の区画。坪が上位)。本書は第一葉表に「康熙拾伍年 月 日給/縣」と墨書きされ、康熙一五年(一六七六)の魚鱗冊であることが分かる。場所については、鶴見氏の地方誌の調査により、揚子江最下流蘇州府長洲県のものだと確認されている。同裏(図1)は全体説明にあたり、下二十五都正扇十九畝の魚鱗冊で撰造者と丈量者、各畝(小村)の帳簿の編集と管理を行う人(畝書)の名前が記載されている。第三葉表と裏(図2)は本都の総字坪形図、図3は壁字、府字等幾つかあるうちの総字坪形図である。一丘ごとの魚鱗の図は、台帳に記された各丘の面積が不均等であるにもかかわらず、ほぼ均等化され、形も多くは短冊形に簡略化されており、また配置も列状をなして記され、魚鱗の形状とは程遠い。これは、図の抽象化が顕著で実態を正確に描写していないためである。図4(部分)は、総字坪第七十九丘坪甲の本文土地台帳である。一葉四地片ずつ記入するように藍格が印刷しており、上の区画の中心部分には田形図が、下の区画には、坪・丘・科則・面積・業戸名が書き込まれている。

ちなみに、業戸名の丁上弦の字は最後の一笔が欠けており、避諱(君主や尊者の名・字と同じ文字を避けること。同音・同義のほかの文字に置き換えたり、字画の最後の一笔を省いたりした)である。康熙帝(一六五四〜一七二二)の名が玄燁であるので欠筆となっている。

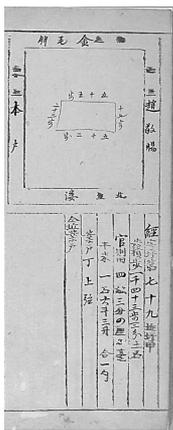


図4

本書の書誌事項は、次のとおり。康熙・雍正年間(一六六一〜一七三五)写 二九四葉 縦二六・五釐 横二四・九釐 錢装 本文料紙にはすべて後代の裏打ちが施されている。(請求記号 345.22221-G982)

なお、当館にはほかに八点の魚鱗冊があり、比較的新しく入った一点を除き、村松祐次氏によって紹介されている。

(相島 宏)

# ヒマラヤ山麓のかけがえのない 文書遺産を護るために

——ネパール出張報告——

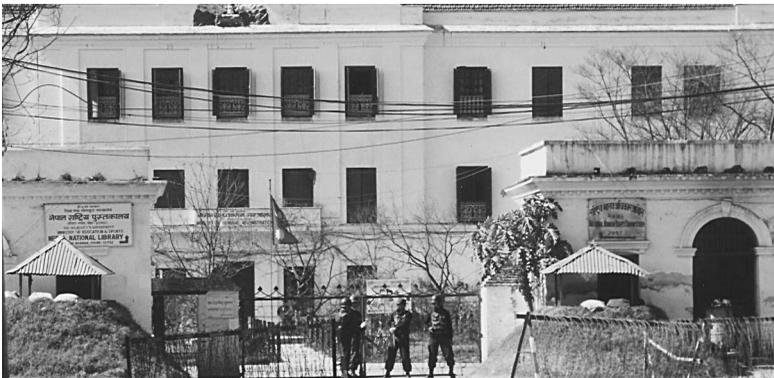
村山隆雄

はじめに

筆者は、国立国会図書館が引き受けている国際図書館連盟資料保存コア活動（IFLA/PAC）アジア地域センターの保存協力の一環として、本年二月一～一〇日、ネパール国立図書館（Nepal National Library、以下、NNL）を中心に、カトマンドゥ盆地の図書館、博物館、公文書館を訪れ、資料保存状況の予備的調査を行うとともに、これらの機関の職員を対象に、資料保存に関する講演を行った。本稿では、この出張の概要について、ネパールの資料保存状況を中心に報告する。

なぜ、ネパールへ——調査に至る経緯——

当館は、二〇〇三年二月に「国立国会図書館における資料保存のあり方」を定めた。これは、一九八五年の策定以来資料保存業務に係る基本計画としてきた「別館完成後における資料保存のあり方について」に替わるもので、予防的保存の重視、パッケージ系電子出版物の納本制度への組み入れ（二〇〇〇年一〇月）、組織再編に伴う業務体制の変更といった館内外の資料保存をめぐる状況の変化に対応して、保存の目的、対象、方法、進



ネパール国立図書館が入っている合同庁舎正面。  
国軍が警備に当たっているが、立入りに際してのチェックはなかった。

め方、保存協力の推進等の基本的な枠組みを新たに定めるものである。この「あり方」に基づいて、二〇〇三年六月には、「国立国会図書館資料保存計画―平成一五―一七年度」を策定し、国際的な保存協力の分野では「アジア地域における情報共有化の促進」「アジアの国立図書館等への協力」「資料保存シンポジウムの開催」「紙媒体資料の保存への貢献」に取り組むことを目標に掲げ、アジア地域センターの活性化をより鮮明にした。各地域センターが担当地域への貢献に加えて、得意分野での世界的な貢献を求められていること（アジア地域センターは紙の保存）や、中国国家図書館が中国の国内センターに名乗りをあげたことも活動強化の背景にある。

折しも、独立行政法人国際協力機構（以下、JICA）シニア海外ボランティアとして、二〇〇二年四月から約二年間NNLに派遣されていた図書館運営アドバイザーの山田伸枝氏から、同館の資料保存への協力の打診があり、二〇〇三年七月、山田氏の一時帰国の際に、当館で保存協力の可能性を協議した。また、同年一二月には、ブータン国立図書館長が当館を訪問され、同様の要請があった。両国立図書館とも、資料保存については、手付かず状態であり、貴重な文献の劣化の危険性が高い。早急の取組みが必要であり、ネパールでの調査や経験は、ブータンの支援にも役立てることができるとの判断から、NNLの要請に応えることとなった。

## ネパール国立図書館の概要

今回の出張の主たる訪問先であるNNLは、一九五七年に設立され、教育スポーツ省に所属している。その使命は、①全国総合目録や全国書誌の作成を含む中央図書館としてのサービスの実施、②ネパールで刊行された出版物の収集、③ネパールに関するすべての資料の組織化と保存、④国民への閲覧、

## ◆ネパールという国◆

ネパールの国土は、東西八八五km、南北の平均幅は約一九三kmで細長い。総面積は一四・七万km<sup>2</sup>。北海道の二倍弱である。北部で中国と、東西および南部でインドと接する。標高は南部タライ平原の七〇mから北部山岳地帯八、八四八m（世界最高峰のエヴェレスト）まで二〇〇km足らずの間に変化する。気候も亜熱帯モンスーンから、温暖な中間山地を経て、亜寒帯高山気候まで変化する。東西は、東部・中部・西部・中西部・極西部の五つの開発地域に分けられ、さらに前記の地勢を加味して、各々山岳・中間山地・タライに分け、少なくとも一五のブロックで見なければ、ネパールを理解することができないといわれるほど、狭い国土の中での自然条件と経済状態の差が激しい。行政区分ではないが、国の統計もこの単位を基本に取られている。

加えて、多数の民族と言語、そして宗教の存在がある。人口は二、四八〇万人（二〇〇四年七月現在）。一〇二の民族／カースト、九二の言語が並存する多民族国家である。公用語はネパール語で、母語とするのは全人口

レファレンス、情報サービスの提供、⑤移動図書館の活用による読書運動の推進、⑥国内の他の図書館の発展支援とネパール文献出版活動の推進、とされている。

組織は、整理・図書館情報サービス・管理の三セクションで構成され、職員は二二名（館長を含む司書四名、司書補七名）である。四つの開発地域に支部図書館（ポカラ公共図書館、マヘンドラ図書館、カイラリ公共図書館、サルバジャンク・ヴィデヤ・バワン図書館）を持っている。ユネスコ五か年プロジェクト（一九九五・九九）の一つとして、児童室を開設し、児童サービスを開始した。二〇〇三年、専用の児童室（Nepal Children's Library）を敷地内に新設した。蔵書の言語は、ネパール語、ヒンドゥー語、サンスクリット語、ネワール語等で、約七万七千点の図書・逐次刊行物・ドキュメント類の刊行物、CD・ROMを含む視聴覚資料六六〇点、マイクロ資料一五六タイトルを所蔵している。年間の増加冊数は三、一三八冊、資料購入費は二二万ルピー（一ルピーは約一・五円、図書館予算総額二六〇万ルピー）、年間利用者数は二二、二七〇人である（NNL年報二〇〇二／二〇〇三による）。大部分の資料は言語別の開架式で公開されており、新聞がよく利用されている。ネパール紙に書かれたサンスクリット語の一枚ものが貴重であるが、マイクロ化の際に、相当破損させてしまったとのことであった。

建物、図書館専用ではなく、総務省、国連開発計画・人権委員会、その他が同居している。このため、国軍が警備に当たっている。通路が閲覧室となっており、すべての窓が開け放たれていた。書庫まで達する日差し、剥き出しの電気配線等、課題は多い。電圧が不安定で、停電もよくあると聞いていたが、筆者の滞在中には一度あっただけであった。

なお、ネパールの全般的な図書館事情については、前述の山田氏の「ボリ

の五〇％弱、識字率は五三・七％である。一九歳以下が全人口の半分を占める「若い国」でもある。識字率の向上のために、教育の必要性が叫ばれるが、貧困のため未就学あるいは未修了の児童も多い。

国教であるヒンドゥー教が全人口の八一％を占めるが、仏教（一〇％）、イスラム教（四％）（二〇〇一年のネパール全国人口調査 <http://www.cbs.gov.np>）とも穏やかに并存しているように見える。町の辻という辻に祠があり、祈りはまさに生活の一部である。

政治的には混迷を深めている。一九九〇年に民主化されたが、二〇〇二年の下院解散以降、議会が機能していない。「マオイスト」によるバンダ（ゼネスト）が全国規模やカトマンズ盆地等、地域規模で頻発しており、国軍との衝突も絶えない。バンダの度に交通が麻痺し、市民生活にも大きな影響が出ており、外国人観光客の落ち込みも懸念される。最近の新聞報道によると、国連が和平交渉仲介の意向を示している。

多くの国々がネパールを経済援助しているが、わが国は、二国間では最大のODA供与国である。

ポリ通信」(『図書館の学校』二〇〇二年一月号〜二〇〇四年五月号に連載)を参照されたい。

## ネパールの資料保存概況

出張の日程は、四〜五頁下段のとおりである。一か所の図書館、博物館等で資料保存状況を調査し、意見交換をしたほか、NNLでは資料保存に関する講演会も行った。資料保存の教材ビデオ“Slow Fires : On the Preservation of the Human Record” (A Terry Sanders Film / American Film Foundation 1987) 上映の後、“Introduction to Library Preservation”と題して講演をした。参加者は、二月五日までに訪問した機関に加え、バハ社会科学図書館をはじめ七機関からも参加があり、合計一四機関、一八名の職員が参加した。同時に、持参した劣化マイクロ資料、和紙、保存箱、当館刊行の資料保存関連パンフレット、日本図書館協会やIFLAの刊行物を会場に展示し、好評を博した。訪問機関の資料保存状況の調査の結果は、資料の媒体別・劣化原因別にまとめると次のようになる。

### (一) 紙資料

紙質はよくないが、ネパール国内刊行物には酸による著しい劣化は見られなかった。ほとんどの図書が簡易製本のため排架に際しては、ストッパーや箱の利用等、資料が反らない工夫が必要である。欧米(ほとんどが英語資料)のものも、酸による著しい劣化は見られなかった。再製本の際、のどが切られてしまい、開くのが困難になっているものが散見された。

### (二) パームリーフ資料(パームリーフについては、五〜六頁下段を参照)

アサ文書館では、わが国の民間機関による支援もあり他の機関に比べ保存状態はよい。原資料の保存のためのデジタル化も進んでいる。ケイシャー図



資料保存に関する講演会の会場  
(ネパール国立図書館)

### ◆ネパール出張日程◆

- 二〇〇四年二月一日 カトマンドゥ到着
- 二日 NNL訪問(カトマンドゥ盆地を対象とするバンドタのため、NNL館長表敬は翌日に延期)、JICAネパール事務所訪問(NNL職員の日本派遣への協力を要請)
- 三日 NNL訪問(タパ館長表敬)、マダン・プラスカール図書館、国立公文書館、トリブヴァン大学中央図書館訪問
- 四日 アサ文書館、国立博物館訪問
- 五日 教育・スポーツ省、ケイシャー図書館
- D・K・レグミ記念図書館訪問

書館では、変色したものが見られた。国立博物館では、木箱に乱雑に入れられたまま、保存環境のよくない倉庫に保管されており、蒸れが心配される。劣化の危機に瀕した貴重な資料群であり、ネパール全体の保存状況調査が望まれる。

### (三) マイクロ資料

マイクロフィルムはNNL、国立公文書館ともキャビネットに保管され、抜き取り調査でも酢酸臭はなかった。しかし、製作年代から見て、TACベースのフィルムが使用されている可能性がある。点検し、劣化対策を施す必要がある(七頁下段参照)。しかしながら、化学的劣化対策以前の課題に、工程管理の導入とマイクロ撮影の基礎的な研修がある。NNLの新聞マイクロ化は、合冊製本後に行われている。このため、見開きのセンター部分の写りが悪いものがある。無理して開くと、再製本が必要になり、さらに原紙を傷めることになる。閲覧用に展示後、マイクロ化する等の工夫が必要である。

設備については、わが国からの文化無償供与援助により導入されているものの、導入に伴う技術援助が原則的に認められておらず、設置時の指導を除けば、設備だけの援助に終わっている。消耗品の補充や機器のメンテナンスを含め、発展途上国の自立的運営のための、わが国の文化協力事業における関係機関の連携・協力の必要性をあらためて実感した。

第三者機関によってマイクロ化された場合の取り決めがあいまいで、自館にマイクロフィルムが残っていない、あるいは何がマイクロ化されたのかを図書館員が把握していないケースもあった。契約により、自館にもマイクロ等の複製物を残すという方法も知られていなかった。資料保存の分野に限らないが、プロジェクト・マネージャーのような業務を俯瞰できる監督者が必

六日 NNL訪問(資料保存に関する講演会を実施)、バハ社会科学図書館訪問

七日 スリ・ガリマ図書館訪問

八日 ウグラ図書館訪問

九日 NNL訪問(調査に基づく所見報告と意見交換を行った。参加者はタバ館長、シュ

レスタ館長次席、目録担当のプラデーブ・バッタライ氏、山田氏のほか、バハ社会科学図書館のダリ館長。)

一〇日 NNL訪問(タバ館長と日本における研修要望と派遣候補について懇談)

十一日 帰国

### ◆パームリーフ◆

東南アジアや南アジアでは、紙が利用される以前から、書写材として椰子科の植物の葉(パームリーフ)が用いられていた。葉を煮てから乾燥・プレスし、長方形に切りそろえ、表面を滑らかにして書写面とする。そこに尖筆で文字を刻み、木炭等の黒の顔料を擦り込んで文字を浮き出させる。薄い板状となった各頁に一つか二つ穴をあけ、頁を重ね、木製(あるいは竹製)の表紙を付けて、紐で綴じる(六頁下段右参照)。

要である。

#### (四) 温度、湿度管理

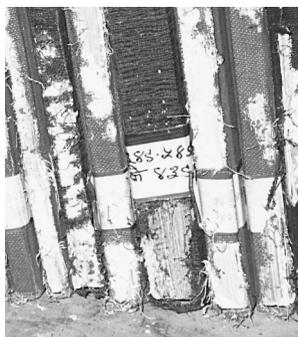
国立公文書館を除き、すべての図書館が自然空調である。ネパールでは、一日の変化が大きい。一般的には、短い周期で大きな変化があると、資料へのダメージが大きい。また、滞在中は乾期（九月から翌年五月まで）であったが、朝は濃い霧が連日発生していた。相対湿度の変化も大きい。資料への影響を極力抑さえる対策が必要である。

#### (五) 光

太陽光は多くの紫外線を含み、化学反応を促進して、劣化を早める。ほとんどの図書館が窓を開放しており、場所によっては、直接資料に太陽光が当たっていた。滞在期間中は、室温が低くコートを着用しなければならぬほど寒かったが、窓やドアはいつも開放されていた。そのような環境で目録作業が行われており、必然的に窓際が作業場所になる。ケイシャー図書館では、目録作業がバルコニーで行われていた。利用者も窓際で資料を利用していた。

#### (六) 酸性ガス・塵埃等

カトマンドゥ盆地は世界でもっとも大気汚染が深刻である。周辺に位置するレンガ工場からの煤煙、自動車等の排気ガスに砂塵が加わる。ガス状および粒子状汚染物質濃度がきわめて高い。開放された窓からは、これらが侵入している。定期的な清掃も重要だが、侵入を防ぐ手立ても必要である。とりわけ、マイクロ資料やデジタル資料へのダメージが大きくなると思われる。マイクロ化もデジタル化も初期投資が大きいので、修復やシステムの復旧は、図書館にとって大きな負担となる。マイクロ資料やCD・ROMのようなパッケージ系電子出版物はケースに収納し、キャビネットに保管する。機器類には必ず覆いをする必要がある。



背をネズミに齧られた図書  
(ネパール国立図書館)



ケイシャー図書館所蔵のパームリーフ  
(中央)と表紙(右側)。一部の文字が消  
えつつあり、端の損傷も進んでいる。

## (七) 生物被害

ネズミの被害が各図書館で見られた(六頁下段左参照)。どこからでも入ることが原因の一つである。資料だけでなく、ネズミは、電気系統の配線を齧って、電気をショートさせ、火事の原因となることもある。

訪れたのが乾期だったこともあり、カビをはっきり確認できたのは、ケイシャー図書館の書架下段部分の図書だけであった。換気の悪さに加えて、床掃除に大量の水が使用されていることが原因であると思われる。国立公文書館では、カビ対策のため、受入れの際の乾燥作業が必須とのことであった。赤い布に含まれる色素の防虫効果と思われるが、パームリーフ類等貴重な経典類や公文書の多くが赤い布に包まれ保管されていた。

## (八) 災害

「岩山が多く、もろい地質構造、非常に高い山々、急傾斜、複雑な地形、変わりやすい天気、活発な地殻変動過程、無秩序な住宅開発、増加する人口、弱い経済的状况と低い識字率といった要素から、ネパールは様々な災害に対して脆弱である」(ネパール カントリリーレポート99 アジア防災センター <http://www.adrc.or.jp>)—同レポートによると、ヒマラヤは、チベットプレートの下にインドプレートが入りこんでいるため、地震活動が活発な地域である。一九三四年には、カトマンドゥを震源地とするマグニチュード八・四の巨大地震があった。死者は一六万人を超え、三一万戸以上の家屋が倒壊した。一九八〇年には、バジャングを震源地とするマグニチュード六・五の、一九八八年にもウダヤプルを震源地とするマグニチュード六・六の地震があった。レンガ造りの建物が多く、倒壊の危険性が高い。

また、一月から二月の間、日中はさほどではないが、日が落ちると、暖を取らなければならないほど、カトマンドゥでも寒くなる。乾期の最中であ

## ◆TACベースフィルム◆

TACベースフィルムとは、トリ・アセチル・セルロースをベースに使用したフィルムで、おもに一九五〇年代から八〇年代に使用された(現在は、素材として安定したポリエステルをベースとするPETベースフィルムが主流)。TACベースフィルムでは、ベースが加水分解する過程で生じたわずかな酢酸が密閉容器内で蓄積され、それがあるレベル以上に達すると、急激な劣化を招く。金属リールに巻いて金属の缶に密閉し、高温多湿の場所に二五〜三〇年以上保管しておいた場合に、酢酸臭を発生し、ベースがべとつくなどの劣化を起こすので、製作後二五年経過したフィルムは点検・処置(蓄積した酢酸の放散処理など)が必要である。

## ◆村のコミュニティ図書館◆

NNL、国立公文書館、国立博物館、トリブヴァン大学中央図書館を除き、今回訪問した図書館、文書館は、すべて民間の篤志家による施設であった。蔵書数も少なく、二、三名の職員で運営されているが、アサ文書館に

り、消防施設等、社会基盤の整備の遅れと密集した市街地という状況から、一旦火災が発生すると大火災になる可能性が高い。一九九九年には、カトマンドゥで大規模な火災が発生した。

NNLには、消火器が設置されているが、壁の高い位置に掛けられ、しかも一人では操作できない重量物である。緊急時の対応が可能な点検も含め、防災対策が必要である。

#### (九) 資料の取扱い

乱雑な排架による物理的損傷が多く見られ、整理待ちや入力待ちの資料も乱雑に床に積まれていた。切り取りや窃盗があるとも聞いた。職員と利用者双方の資料の取扱いに対する意識の向上が望まれる。

#### (一〇) 建物

ほとんどの図書館や文書館が専用の建物ではない。使い勝手の悪さを、工夫して凌いでいる。

### ネパールの資料保存を進めていくために

国立公文書館と国立博物館には、シニア・コンサバターと呼ばれる専門家が配置されているが、NNLには配置されていない。資料保存を進めるためには、核となるべき職員が必要である。また、NNLは民間出版物の法定納本を検討しており、大量の出版物保存に向けてのノウハウの獲得も課題となっている。今回の調査により、予算、建物、設備、人的資源等、厳しい条件はあるものの、予防的資料保存対策を講ずることにより、文書遺産の劣化を遅延させ、新たな劣化を防ぐことができることがわかった。一方、NNLを含め、国の機関は規模が小さいにもかかわらず、職員一人一人の職務内容が狭く、「専門化」している。サービスや保存といった分野での、国の文化機関

代表されるように、私立の機関は、民族文化の保存意識が強く、所与の環境下で目的を果たすために努力しているのが印象的であった。二月七日、八日に訪れたスリ・ガリマ図書館ウグラ図書館も忘れることができない。両館は村の有志による図書館協議会が運営するコミュニティ図書館である。スリ・ガリマ図書館を例にとると、一九九〇年の民主化に伴い、若い人には図書館が必要であるとの発議が村の長老からなされ、土地が村からの無償供与、建物は寄付され、図書館が設置された。蔵書規模約一、〇〇〇冊。コミュニティ・メンバーが交代で運営にあたっているが、サービスには専任が必要であると、専任一名に対して村が給料を支給している（ウグラ図書館は専任一名が学校に行くための授業料を負担）。

NNLの貸出しサービスを受けており、二か月に一回の割合で、八〇冊を借り受け、住民にサービスしている。閲覧は無料であるが、貸出しを受けるためには、月五ルピーの登録料が必要である。一四〇人が登録している。貸出期間は一週間。開館時間は、午前が七時から八時三〇分、午後が三時から六時（夏は七時）で、休日の土曜日は午前一〇時から午

における意識はこれまでは、あまり高くはなかった。

このような状況を反映して、タパ>NNL館長からは、同館の職員を日本で研修させ、資料保存のみならず、納本制度、全国書誌の作成、児童図書館を含む運営の方法に加え、サービスマインドも学ばせたいとの要望が出された。当館は、今後は、NNL自身による資料保存への取組みのための基礎作りを支援する予定であるが、NNLにおける、ネパールの風土や発展状況に合った実践が、ネパール国内の他の機関へ効果的に浸透していくよう配慮しながら、支援を進めることも重要な課題である。

### むすびにかえて

カトマンドゥウにいたのはわずか半年前なのに、もうずいぶん昔のような気がする。飛行機から見たエベレスト、ナガルコットの麓の段々畑と菜の花、カトマンドゥ盆地の旧市街、子どもたちの眼差し、どれもが懐かしい。政治的な混迷が深まっているだけに、豊かな自然と文化遺産、そしてかけがえない文書遺産を若い世代が受け継ぐことを願わずにはいられない。

末尾ながら、今回の調査にあたり、訪問機関との連絡、日程調整、全行程に同行くださった山田伸枝氏に深甚の感謝を申し上げます。氏のサポートがなければ、到底かなわらない調査であった。また、暖かく迎えていただいたタパ館長、シュレスタ館長次席をはじめ、NNLのスタッフの皆さん、JICAネパール事務所の三苦栄太郎所長およびスタッフの皆さん、資料提供をしてくださった日本図書館協会、中性紙のアドバイスをしていただいた株式会社T.S.スピロンの神谷修治氏に感謝申し上げます。

(むらやま たかお 関西館資料部長、前IFLA/PAC

アジア地域センター長)



スリ・ガリマ図書館にて。  
後列左端がバストラ館長、同右から2人  
目が筆者。

後五時までである。早朝の開館を含め、開館は村人が利用しやすい時間帯に設定しているとのことであった。

蔵書の保存状況は資料の破損に加え、ネズミによる食害や紙の劣化もあり、決してよくはない。しかし、コミュニティ図書館は村民によって大変よく利用されており、生活に欠かせない場ともなっている。そしてコミュニティ図書館の運営を、一〇代後半から二〇代の若人が誇りを持って行っていることに感銘を受けた。ネパールの若者に学ぶところが多い。

## ネパール国立図書館職員のための研修事業—国際協力機構と

### 国際図書館連盟資料保存コア活動アジア地域センターの協力—

那 須 雅 熙

#### ネパール国立図書館からの協力要請

国際図書館連盟資料保存コア活動（IFLA/PAC）アジア地域センター（以下、センター）は、平成一五年度、ネパール国立図書館からの資料保存に関する協力要請に対して、二年度にわたる次のような取組みを計画した。

平成一五年度は、①図書館等における資料保存状況の調査と資料保存への関心喚起を目的に、村山隆雄センター長（当時）を現地に派遣する、②ネパール国立図書館職員の日本における保存研修の実現に向けて、同館や独立行政法人国際協力機構（JICA）と協議を行う。平成一六年度は、①前年度の実態調査に基づき、同館から資料保存の中心となる職員を受託研修生として受け入れ、外部機関とも連携して効果的な研修の実施に努める、②同館とセンターは二か年の活動を評価し、平成一七年度以降の取組みを決定する。なお、一五年度の経緯については、本誌一〇九頁の記事を参照されたい。

ネパール国立図書館からの研修要望は、JICAから同館に派遣されていたシニア海外ボランティアの山田伸枝氏を通じて、すでに昨年中に、JICAに提出されている。

これを受けて今年度、JICAは、同館職員のプラディプ・バッタライ氏を、平成一六年度ネパール国課題別研修「資料保存および国立図書館運営等」の研修員として受け入れることを内定し、当館に対し研修全般に関する協力と当館における受託研修生の受入れを正式に依頼した。山田氏の献身的な努力と村山センター長の現地における調査が実を結び、いよいよ来月、この研修が実現しようとしているのである。

#### バッタライ氏のための研修計画

ネパール国立図書館の研修希望は、同館の状況やバッタライ氏が囑望される職員であることを反映して、資料保存のみならず、国立図書館の役割と機能、納本制度の運用と全国書誌の作成、児童図書館サービス、公共図書館支援まで国立図書館の運営全般に及んでいる。この希望と村山センター長の実態調査をふまえて、センターで研修内容とスケジュールを検討し、館内外の関係者の了解を得た。研修期間は、平成一六年一〇月一四日から二月二日までの予定である。

資料保存については、ネパール国立図書館の資料保存マネジメントの核となる職員の養成に資するため、同館における保存ニーズに即した基本的な予防的保存の考え方・技術および保存・修復方針の策定の方法を履修し、実際に保存方針を立案できる能力をかん養することを目的にカリキュラムを組むことにした。館内研修では、資料保存の基礎、劣化原因と予防的保存対策、図書材料・形態等、製本・修復業務管理、資料の防災計画、国立国会図書館の資料保存活動、ネパール国立図書館の資料保存計画等を想定している。また、館外研修として、特に当館で研修の機会が得られない善本の保存と利用、和紙の製造等の分野について、外部機関の協力を仰ぎ、研修・見学・懇談を予定している。

ネパール国立図書館の状況は、当館とは著しく異なる。雨期・乾期があり、一日の寒暖の差が大きく、建物は図書館として建てられたものでなく、資料は強い日差し、埃、砂塵、酸性ガスにさらされている。パッタライ氏が日本の図書館の状況を見て、現地の環境や条件に適した保存方針について考えてもらえればと思っている。

## センターの研修事業

センターは、これまでも保存協力プログラムに基づき、アジア各地の国立図書館等への保存協力を展開し、研修生や調査員の受入れ、講師派遣を行ってきた。研修生等の受入れは、一九九〇年から現在まで一二回にわたり七か国一

地域（マレーシア、オーストラリア、タイ、イギリス、スリランカ、インドネシア、韓国、台湾）から二五名にのぼる。講師派遣は、一九九一年から現在まで、これも一二回にわたり延べ四名の職員を一一か国（インドネシア、イギリス、モンゴル、エジプト、ミャンマー、インド、タイ、マレーシア、ベトナム、韓国、ネパール）に派遣してきた。その実績をふまえ、さらに要望や期待に十分応えていくため、センターは、平成一五年度からアジア地域における良好なコミュニケーションの確立を目指し、保存ニーズの把握と対応に努めるとともに、研修生受入れを含む保存協力活動の強化を標榜している。

今回の研修事業は、JICAが実施する研修プログラムに初めてセンターが協力し、研修内容の検討、カリキュラムの編成、当館以外の研修先の選定などの研修企画と研修の実施に関する管理を行うものである。JICAにとって協力的分野を広げ、当館にとっては財政的基盤を得ることにより、国の国際協力事業がより豊かに、より実践的に、実施されることが期待される。

センターは、今後も、広く国際協力関係機関との連携協力を推進することにより、広大かつ文化的に多様なアジア全体に対する保存協力活動を強化し、積極的に展開していく予定である。

（なす まさき 収集部司書監、IFLA/PACアジア

地域センター長）

憲政資料室（東京本館）は、いささか敷居の高い部屋なのだろうか。ほかの部屋と間違えて入室された利用者が、静寂そのものの雰囲気にいぶかしそうな様子を見せられることがある。カウンター背後の細い通路をくぐりぬけると事務室（政治史料課）となるが、こちらもいたって静か。

憲政資料室の資料は、占領期の英文資料から、近現代政治関係者の手紙、書類、日記、原稿・草稿、写真、ポスターまで多岐にわたる。ときには書庫から絹張りの巻物が麗々しい木箱に入っご来臨、ということも。書庫には職員しか出入りできないので、利用者とは資料をつなぐ大切なツールが言うまでもなく目録である。ここでは目録づくり、その中でもとりわけ頭を悩ませる手紙の整理について書いてみよう。

手紙の場合、目録に記すおもな情報は、運輸の差出人、宛先、発信の年月日等である。一見簡単そうに思われるが……。

最初の難関はくずし字（草書、行書）の読

解。比較的楷書体に近い書類の文字と異なり、手紙のくずし字は本来の原型をとどめないものが多い。

また、いつ頃の手紙なのか年代を推定するのも頭の痛い（けれども楽しい）作業の一つである。文末に年月日の記載がある場合や消印が鮮明な場合はあっさり年代



が判明するが（消印を光にかざして無理やり数字を読み取ろうとしているのはきっと私だろう）、それ以外の手紙は、登場する人物の役職名、文中に言及されている事件、切手の種類や料金などを調べ、乏しい知識と大量の参考文献を動員しながらパズルさながらに推理を重ねていく。

そもそも目録づくりのためとはいえ、他人同士の手紙を読むわけだから罰があたりそうな気がする。ハンカチに血で「死」などと書かれた呪いの文を読んだりした日には怖い夢を見そうな気持ちになる。かくしてこここつ作りためたカードを基にして目録を完成させると、待望の公開の日がやってくる。

（政治史料課 史）

常設展示のお知らせ

### 第一三三回 ユートピア

—どこにもない場所—

平成一六年一〇月一日（金）から  
一二月一六日（火）まで  
於 本館二階第一閲覧室前（東京本館）



詳細は本誌五二一号または当館ホームページをご覧ください。ホームページでは、「ギャラリー」のなかにある「常設展示」のコナーに、「展示資料」一覧と簡単な解説文を掲載しています。（<http://www.ndl.go.jp/jp/gallery/permanent/index.html>）

巻末にこの展示会に関連したコラム「本を魅せる常設展示案内」があります。

## レファレンス協同データベース実験事業

### ―第二期参加館募集のご案内―

レファレンス協同データベース実験事業は、全国の図書館で日々行われているレファレンス・サービスの記録等を一本化したデータベースとして構築し、調査の知識と情報を図書館業務および国民の情報検索に役立てることを目的とする実験事業です。レファレンス・サービスの重要性が認識される中、一四八館の図書館の参加を得ております。この度、第二期の参加館募集を行うこととなりましたので、その概要をお知らせいたします。

#### 一、事業の経緯

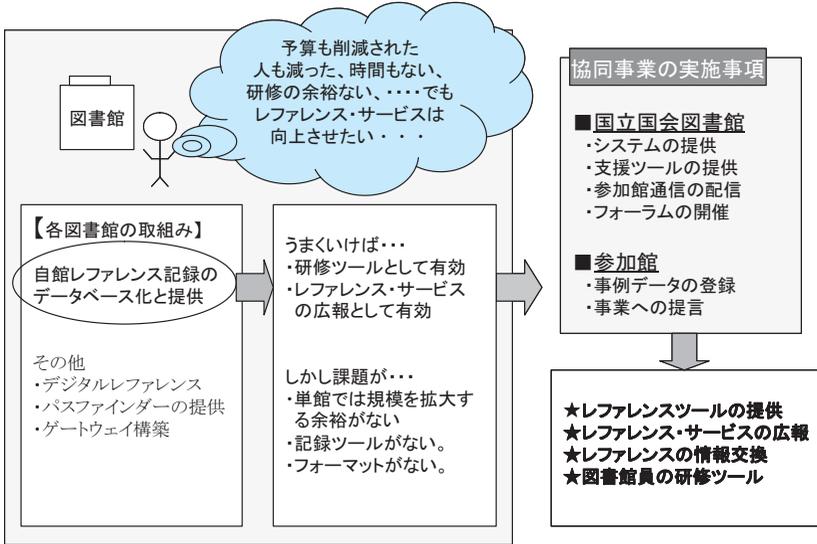
国立国会図書館では、レファレンス協同データベース実験事業を平成一四年度から着手し、全国の図書館と協力しながら実施しています。平成一四年度は、参加館会議、アンケート、先行事例調査等を実施し、国内外の動向を把握するとともに、システムの基本設計を行いました。平成一五年度は第一期参加館募集を行い、その結果、参加館は当館、行政司法各部門の支部図書館二館、公立図書館七八館、大学図書館五一館、専門図書館一六館、計一四八館となっております。また、システムの詳細設計・開発を経て、参加館によるデータ登録を開始しました。平成一六年度は、システムの機能拡張を行い、第二期参加館の募集を行います。また事業の一般公開にむけ準備を進めるとともに、参加館フォーラムの開催等を予定しています。

#### 二、事業への参加の勧め

様々な局面で情報に対するニーズが高まる一方、流通する情報量が確実に増加しています。このような状況の中で、図書館のレファレンス・サービスは一層重要になりつつあり、レファレンス・サービスの質的向上を目指して、全国各地様々な取組みが行われています。そのひとつとして、レファレンス事例や調べ方の情報を、事例集やFAQ、データベースとしてインターネットで公開する意欲的な図書館が増えてきました。しかし、それと同時に様々な課題も浮かび上がってきました。

- ・ 単館では、提供するレファレンス事例の数が少ない。
- ・ 公開する事例データの内容や品質基準が不明である。
- ・ 他館の事例も参照したい。
- ・ レファレンス記録をデータ化、管理するシステムがな

レファレンス協同データベース実験事業はこんなメリットがあります



- い。
- ・レファレンス・サービスについてはほかの図書館員と情報交換をしたい。
- これらの課題を解決するため、この事業では、次のことを実施しています。
- ・レファレンス記録の標準フォーマットの提供
  - ・レファレンス記録作成ツールの提供
  - ・このシステム上で、自館参照レベル（他館からは検索不可）で事例データを作成、登録、検索および管理可能な機能の提供
  - ・様々な種類の図書館の参加による事例データの収集（九月八日現在、約一一、〇〇〇件）
  - ・情報交換のための掲示板の提供
  - ・様々な情報を記載した参加館通信を毎月配信
- 参加館からも様々な意見が寄せられています。
- ・他館のレファレンス事例を読むことで、自館のレファレンス・サービスを確認できた。
  - ・レファレンス研究会等で活用している。
  - ・レファレンス・サービスを広報することができる。
- このシステムを自館のレファレンス事例の管理ツールとして活用している。

レファレンス協同データベース実験事業  
Collaborative Reference Database Project

ID: 100000000001 国立国会図書館テスト  
管理者でログイン中 ヘルプ ログアウト

トップページ

参加館公開 ▾  レファレンス事例  調べ方マニュアル  特別コレクション  参加館プロフィール

検索条件  検索の上限 50件 ▾

検索 リセット

レファレンス事例 ▾ 詳細検索画面へ

レファレンス協同データベース実験事業  
Collaborative Reference Database Project

ID: 100000000001 国立国会図書館テスト  
管理者でログイン中 ヘルプ トップに戻る ログアウト

レファレンス事例一覧

検索条件 【検索対象】"全館" AND 【提供館名】"国立国会図書館" 条件の再入力 条件の絞り込み

21~30件目を表示中 前ページ [ 1 2 3 4 5 ] 次ページ

検索件数:50件 検索の上限に達しました 並び替え 最終更新日時 以降 ▾ 10件まで ▾ 表示

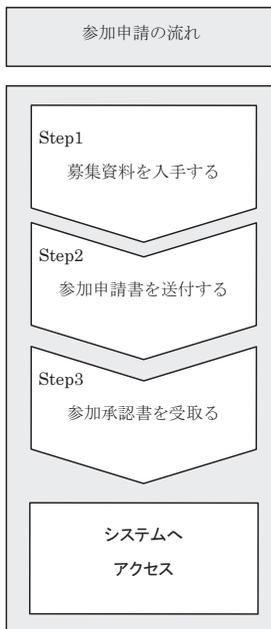
21	1-109446320001	参加館公開	1994年11月06日	国立国会図書館東京本館	2004年03月06日 20時03分
<p>要旨 1494年6月7日、スペインのトルデシリャスで締結されたスペイン・ポルトガル間の海外領土に関する条約          内容 下記(1)にこの条約が記載されています。次に歴史的観点からポルトガル、スペイン両国の歴史、地理上の発見に関する資料等を調査した結果、参考となる文献を所蔵してありましたのでその一部をご紹介します。</p>					

〈システム画面例〉

現在、この事業には館種や規模を超えた様々な図書館が参加しています。多くの参加館が協力し合うことにより、今までにない大きな力を生み出すことができます。レファレンス・サービスの一層の向上を図るために多くの図書館に参加いただきたいと考えております。

### 三、事業への参加方法

募集期間は、平成一六年一〇月から一二月月中旬までを予定しています。また、参加承認は、平成一六年一二月中となります。参加までのプロセスを三ステップに分けて紹介します。



### ステップ（二）募集資料を入手する

「レファレンス協同データベース実験事業実施要項」および「レファレンス協同データベース実験事業参加規定」

を入手し、参加条件等を確認してください。

国立国会図書館のホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>)「図書館員のページ」―「レファレンス協同データベース実験事業」にアクセスすると、実施要項、参加規定、参加申請書等がダウンロードできます。

#### ◆参加資格は

- ・学校教育法第一条の大学または高等専門学校に設置された図書館または研究所
- ・図書館法の規定に基づく図書館またはこれに準ずる機関
- ・官庁、公益法人、企業、専門団体等によって運営される図書館または図書室のうち、国立国会図書館長が適当と認めるもの
- ・国立国会図書館長が適当と認める図書館またはこれに準ずる機関

#### ◆参加条件は

- ・レファレンス事例データまたは調べ方マニュアルデータを最低一件以上登録していただきます。
- ・事業への参加費用は無料ですが、インターネットに接続されたPC（推奨OSは、Windows98SE、Windows 2000以降）とメールアドレスが必要です。

ステップ（二）参加申請書を事務局へ送付する

「レファレンス協同データベース実験事業参加申請書」に必要な事項を記入し、左記の事務局まで送付してください。

ステップ（三）参加承認書を受け取る

締切り後、事務局において承認の手続きを行い、参加承認書を発行し、お送りいたします。またその際、IDとパスワードを発行します。このIDにより、事例の登録や検索などの機能を使用することができます。

この事業を成功させるためには多数の事例データの集積が必要です。多くの図書館のご参加とご協力をお願いします。

#### お申込み・お問い合わせ先

国立国会図書館関西館事業部電子図書館課

レファレンス協同データベース実験事業事務局

〒六一九・〇二八七

京都府相楽郡精華町精華台八、一、三

電話 〇七七四・九八・一四七三（直通）

E-Mail [info-cr@ndl.go.jp](mailto:info-cr@ndl.go.jp)

## ご案内

### 国際セミナー 「デジタル時代のドキュメント・デリバリー・サービス ：ビジョンと戦略」

国立国会図書館では、ドキュメント・デリバリー・サービスに関する標記の国際セミナーを開催します。

現在、電子ジャーナル等の電子情報資源の図書館への導入が進み、また、図書館を経由しない情報流通手段が出現しています。こうした環境変化の中で、ドキュメント・デリバリー・サービスを担ってきた図書館等の公的機関は、そのサービスの在り方を再構築していく必要にせまられています。このセミナーでは、米国、英国、ドイツの主要機関からドキュメント・デリバリー・サービス分野の専門家を招き、欧米の最新動向を紹介していただきます。

日 時：平成16年12月15日(水) 13:00～17:00

場 所：国立国会図書館関西館大会議室

講 師：Mary E. Jackson (米国研究図書館協会蔵書・利用プログラム部長)  
Mat Pflieger (英国図書館セールス・マーケティング部長)  
Uwe Rosemann (ハノーバー大学図書館／技術情報図書館長)

定 員：250名

参加費：無料

申込方法：電子メールまたはFAXで、住所、氏名(ふりがな)、所属、電話番号、FAX番号、電子メールアドレスをご記入のうえ、12月10日(金)までに、下記へお申し込みください。

\*インターネットによる申込み

10月下旬以降、国立国会図書館ホームページ(<http://www.ndl.go.jp>)に申込みフォームを掲載する予定です。掲載後は、インターネットによる申込みも受け付けます。

申込み・問い合わせ先：

国立国会図書館関西館事業部図書館協力課調査情報係

〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台8-1-3

E-mail [chojo@ndl.go.jp](mailto:chojo@ndl.go.jp) Fax 0774-94-9117

Tel 0774-98-1448 (直通)

## 東京本館の新しい開館日・開館時間等について

10月以降は、次のとおり館内利用サービスを拡大します。

- 開館日** 月曜日から土曜日（原則として、すべての土曜日に開館します。）
- 休館日** 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日（毎月第3水曜日）
- 開館時間** 月曜日～金曜日 9:30～19:00（2時間延長します。）  
土曜日 9:30～17:00  
※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室および古典籍資料室の開室時間は17:00までです。
- 資料の請求時間** 月曜日～金曜日 9:30～18:00（2時間延長します。）  
土曜日 9:30～16:00  
※ただし、音楽・映像資料室、人文総合情報室特別コレクション、憲政資料室および古典籍資料室の資料請求時間は、曜日にかかわらず16:00までです。

このほか、複写申込時間についても、原則として2時間延長となります。

詳しくは、当館ホームページ（<http://www.ndl.go.jp>－「10月からの新しいサービスについて」－「東京本館新装開館と新しい館内利用サービスの概要」）をごらんください。



### お知らせ

#### 新連載が始まります テーマは「電子図書館」

10月から、原則として毎月、電子図書館をテーマとする記事を連載します。国立国会図書館が電子図書館事業を進める中で、従来の図書館業務とは異なる課題が、たくさん出てきています。連載では、現段階での当館の電子図書館事業について、現場の作業の紹介を交えながら概観し、課題についてわかりやすく説明したいと考えています。とかく、専門用語の多い分野とも言われていますが、できるだけ平易に解説していく予定です。

この連載記事が、当館の電子図書館事業へのみなさまの理解の一助となれば、幸いです。どうぞご期待ください。



## 本屋にない本

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。このコーナーでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介します。

### 屋根裏の博物館

実業家洪沢敬三が育て

た民の学問

横浜市歴史博物館、神奈川県

川大学日本常民文化研究所編

横浜市

歴史博物館刊 (〒224-0003 横浜市都筑区中川

中央一・一八・一) 二〇〇二・一〇

一七六頁 A4 (GK128-H13)

戦中戦後にかけて、日銀総裁や大蔵大臣を歴任した人物であると聞けば、どんな人物を想像するだろうか。洪沢敬三は祖父である洪沢栄一の後を継ぎ、当時日本でも有数の実業家であった。しかし、そのこと自体は本書のなかではどうでもよいことであり、彼のそういった実業家としての業績については、ほと

んど触れられていない。述べられているのは洪沢敬三のもうひとつの顔、つまり民俗学者としての顔である。彼は消えてゆく日本各地の伝統的な民具や風俗に資料的価値を見出し、それらを後の時代の研究のために精力的に蒐集・記録した。民間伝承の蒐集などで知られる柳田国男とほぼ同時期に、民俗学の確立と発展を支えた影の功労者である。

敬三は幼いころから身のまわりのものを観察したり研究したりすることが大好きな子供であり、祖父洪沢栄一の後継者となるために研究者への道を諦めた後にも、生涯にわたってさまざまな研究資料の収集や編さん事業を推進した。

本書の中で繰り返し述べられている敬三の特徴的な学問に対する考え方は、自分自身が研究者として論文を書くのではなく、学界に資料を提出して、それをのちの時代の研究に役立ててほしいというものであった。このような考え方は、研究者になることをあきらめ、実業家として生きることを決めたことに対する、敬三なりのけじめであったのかも知れない。また、敬三が活動した大正から昭和前期の時代は、日本人の伝統的な生活が大きく変わっていった時代とも重なり、各地で消えて

ゆく古い生活道具などの民俗資料を集め、記録として残すことの重要性を認識していたようである。そしてより質の高い資料を集めるために敬三は、活動拠点である「アチック・ミュージアム（屋根裏の博物館）」において、複数の研究者に協力を呼びかけ、研究資料の収集・編さんが偏った見方によって行われなような配慮もしている。

「アチック・ミュージアム」とは、洪沢敬三が大学時代に友人たちと作った小さな博物館であり、自宅の屋根裏に標本や郷土玩具などを集めて展示したのが、その活動の始まりである。活動の内容や収集品は、敬三の親しい友人や研究者たちの参加によって年々規模が大きくなっていき、玩具蒐集から民具蒐集、漁民資料の編さん、一六ミリフィルムによる「祭りの記録など多岐に渡った。その代表的な成果が、伊豆内浦の旧家などに伝存していた漁民・漁村資料を一括して編集した『豆州内浦漁民資料』や、『絵巻物による日本常民生活絵引』という中世の絵巻物を引用し、そこに描かれている生活道具などに番号を振って説明を加えた、絵で引ける索引である。

二〇〇二年の秋、横浜市歴史博物館においてこの洪沢敬三の足跡をたどる展示会が開か

れた。これは、横浜市歴史博物館と神奈川県立日本常民文化研究所が共同で開催した「くらしを集める くらしを探る 屋根裏の博物館 Attic Museum —実業家渋沢敬三が育てた民の学問—」という、おもに民具に関する展覧会であり、本書はそれに合わせ、渋沢敬三の足跡をたどる意味で作成された。執筆者は大学教授や博物館の学芸員など、一三名であり、やや重複しているところもあるが、それぞれに分拍して渋沢敬三の「アチック・ミュージアム」(のちの日本常民文化研究所)における活動や成果について書いている。あまりにも多くの渋沢敬三にかかわった人物の名前が出てくるので少し混乱してしまうが、写真も多く楽しく読むことができる。

(伊沢 恵子)

### 全米州議会協議会 (旧称 全米立法者会議) 年次大会

七月一九〜二三日、標記大会が、米国ユタ州ソルトレイクシティで「新しい立法の現実」をテーマに開催された。当館からは調査及び立法考査局主幹大山英久が参加した。

### 第三〇回国立図書館長会議 (CDN L) および第七〇回国際図書館連盟 (IFLA) 大会

八月二二〜二七日、二〇〇四年のIFLA大会が「教育・開発ツールとしての図書館」をテーマに、ブエノスアイレスで開催された。当館からは、生原至剛関西館長、那須雅熙収集部司書監、渡瀬義男調査及び立法考査局次長、佐藤尚子国際子ども図書館児童サービス課長、横山幸雄書誌部書誌調整課課長補佐が参加した。大会期間中に開かれたCDNLには、黒澤隆雄館長の代理として生原関西館長が参加した。これらの会合の記録は、本誌一二月号に掲載する予定である。

### 子ども霞が関見学デー

八月二五日に文部科学省主催の「子ども霞が関見学デー」に参加し、小中学生を対象に見学を行った。見学は午前と午後二回実施し、合わせて四六名(うち子ども二六名)が参加した。当館は年齢制限があるため、小中学生はこのような機会にしか入館することができない。

子どもたちは、まず目録ホールを見学して、当館の特徴や利用の仕方について説明を受けた。新館書庫では、地下八階まである吹き抜け部分に下りて、三〇メートルの深さを実感した。

最後は、本の保存・修復の現場を見学した(写真)。「紙の目を知ろう」というコーナーでは、紙の繊維の方向を知るために、紙を破る、濡らす、曲げるなどの実験を行った。



### 第521号 (2004年8月) の訂正とお詫び

口絵裏 (稀本あれこれ)

3行目

Alexandria

→Alexandrina

29頁写真の説明

Петушокъ

→Пѣтушокъ

お詫びして訂正いたします。

# 月例報告

## おもな人事

国立国会図書館支部文部科学省図書館長を免  
ずる

文部科学事務官 和田 智明  
国立国会図書館支部文部科学省図書館長を命  
ずる

文部科学事務官 岩橋 理彦  
以上平成十六年七月一日付け

国立国会図書館支部財務省図書館長を命ずる

財務事務官 山根英二郎  
国立国会図書館支部日本学術会議図書館長を  
免ずる

総務事務官 千野 雅人  
国立国会図書館支部日本学術会議図書館長を  
命ずる

総務事務官 坂下 信之  
以上平成十六年七月二日付け

元職員に対する叙位——  
元職員に対し左記のとおり叙位があった

正七位に叙する  
平成十六年六月二十八日付け

元職員に対する叙位及び叙勲——  
元職員に対し左記のとおり叙位及び叙勲があつ  
た

記  
(元司書) 金子 富保

従五位に叙する  
瑞宝小綬章を授ける  
平成十六年七月十四日付け

## 職員の出向——

司書 柳 与志夫  
千代田区教育委員会事務局へ出向  
平成十六年九月一日付け

## 職員の退職——

(退職時部局)  
司書 中村 恭子  
書誌部  
平成十六年八月三十一日付け

## 国立国会図書館の編集・刊行物

NDLCD・ROM Line  
点字図書・録音図書全国総合目録  
二〇〇四年一号

(一九八〇年以前)二〇〇四年三月収録

参加館は二五館(当館、八七点字図書館、  
一三七公共図書館等)。年二回更新。収録レ  
コード数二九六、五三八件。

年間契約価格四二、〇〇〇円(日)  
初年度のみ六三、〇〇〇円(検索ソフト込み)

レファレンス 第六四三号 A4 七九頁

■企業の子育て支援をめぐって

■「人間の安全保障」

■米本土における艦載機の夜間離発着訓練

(NLP)をめぐる諸問題

■二〇〇〇年政党、選挙及び国民投票法一の  
制定とイギリスにおける政党助成制度(資料)

月刊 税・送料込み 八三二円(有)

..... 入手のお問い合わせ

(日) 日本図書館協会 104-0033 東京都中央区新川二丁目二四  
〒0-033(三三三)〇八二二  
(有) 有隣堂印刷(株) 〒140 東京都品川区南品川全一〇〇  
〒0-000(三五四七九)八七二二

..... 特に記載のないものは税込価格です。

### <立法調査サービス>

調査局では所蔵資料やデータベースを使って、内外の政治・経済・社会などに関する調査や情報サービスを行っています。平成15年度に調査局が行った依頼に基づく調査の処理件数は26,900件でした。うち国会議員および国会関係者に対する調査の依頼者別、さらに種別・調査対象別・回答方法別の内訳は左頁表3のとおりです。

国会で論議の対象になると予測される事項の調査も行っています。その成果は『レファレンス』等の刊行物や国会向けホームページ「調査の窓」で提供しており（平成16年5月末からは当館ホームページでも提供を開始）、平成15年度末現在「調査の窓」の掲載コンテンツは1,320点を超えました。また、衆・参両議院事務局との共同事業である国会会議録フルテキスト・データベースでは、国会WANを通じた利用と当館ホームページを通じた一般公開利用を合わせた総アクセス件数が523,002件（前年度比122,926件増）を数え、大幅な増加を続けています。

### <図書館サービス>

国会議事堂の中央部4階に位置する国会分館では、国政審議に役立つ資料と最新の情報を整備して、国会議員および国会関係者に対して迅速な図書館サービスを提供しています。議事資料、総合法令集、参考図書類等約55,000冊の図書と約600種の逐次刊行物を所管しており、平成15年度の利用状況は、表4のとおりでした。平成15年度は、国会分館情報システムを稼働させ、利用者カードによる貸出しや国会分館所蔵資料の検索（国会分館OPAC）サービスを開始し利用が増え、前年度と比べ入館者数は8.2%、貸出者数は14.2%、貸出冊数は8.8%の増加となりました。なお、調査局および国会分館以外で行った国会への図書館サービスの状況は、表5のとおりです。

表4 国会分館利用状況

	入館者数 (人)	貸出し		複写 (件)	レファレンス (件)
		人数(人)	冊数(冊)		
国会議員	1,398	1,495	3,168	6,643	4,027
国会関係者	47,905	7,527	15,257	1,799	1,247
計	49,303	9,022	18,425	8,442	5,274

表5 国会への図書館サービス状況

	貸出冊数(冊)							レファ レンス (件)	
	東京本館			関西館			国際 子ども 図書館		計
	図書	雑誌	専門 資料	図書	雑誌	専門 資料			
国会議員	9,334	2,402	185	5	50	8	106	12,090	49
国会関係者	2,468	2,064	39		26		4	4,601	59
合計	11,802	4,466	224		89		110	16,691	108

### ＜書誌情報の提供＞

当館では、国内で刊行された出版物の記録として『日本全国書誌』を編さんして、ホームページ上で公開しています。また、作成した書誌情報を一括して検索することができる目録「国立国会図書館蔵書検索・申込システム（NDL-OPAC）」もホームページ上で提供しています。NDL-OPACでは、平成15年度から地図資料、音楽録音資料、映像資料の書誌データを追加収録し、データ収録件数は1,000万件を超えました。平成15年度末現在の資料群別書誌データ提供件数一覧は、表2のとおりです。

表2 NDL-OPACによる  
書誌データ提供件数一覧

資料群	件数
和図書	2,868,996
洋図書	339,888
和雑誌新聞	121,010
洋雑誌新聞	54,462
電子資料	13,977
古典籍資料	5,650
博士論文	307,948
地図	36,053
音楽録音・映像資料	18,173
雑誌記事索引	6,085,992
規格・テクニカルリポート類	154,519
点字図書・録音図書 全国総合目録	293,906

### 国会に対するサービス

当館は、国会議員や国会関係者に対して、国政課題に関する各種の調査および情報提供サービス（立法調査サービス）と、図書館資料の閲覧・貸出し・複写・レファレンスなどのサービス（図書館サービス）を、調査及び立法考査局（以下 調査局）と国会分館を中心に全館的な体制で行っています。

表3 国会議員および国会関係者に対する調査業務の状況

依頼者		衆議院議員	参議院議員	前・元議員	事務局	政 党	計	
処 理 件 数		14,512	9,093	966	500	1,264	26,335	
種 別	分 析	5	5	0	2	1	13	
	調 査	11,842	7,139	567	482	1,153	21,183	
	文 献	2,665	1,949	399	16	110	5,139	
	起 草	0	0	0	0	0	0	
調 査 対 象	国 内	10,003	6,012	706	64	664	17,449	
	国 外	2,752	1,956	172	409	392	5,681	
	内 外	1,570	1,029	75	23	191	2,888	
	そ の 他	187	96	13	4	17	317	
回 答 方 法	口 頭	電 話	456	276	10	33	33	808
		面 談	141	52	28	17	16	254
		会 参 議 加	18	7	0	14	10	49
	文 書	資 料 貸 出 し ・ 複 写 等	12,661	8,091	861	226	1,054	22,893
		調 査 報 告	1,137	612	57	197	142	2,145
		文 献 目 録	87	40	10	11	8	156
	翻 訳	12	15	0	2	1	30	

## ＜収 集＞

当館では、資料を買う（＝購入）、国内の官庁および民間の出版社から納本される（＝納入）、国内外の個人や団体から寄贈を受ける（＝寄贈）、国際機関や外国政府等との交換により入手する（＝国際交換）などの方法によって収集します。平成15年度の図書および逐次刊行物の受入数は、図書234,456冊、雑誌424,903冊、新聞197,943点でした。非図書資料の受入数は、マイクロフィルム31,165巻、マイクロフィッシュ198,619枚、ビデオディスク（DVD-V、LD等）5,852枚、ビデオカセット1,224巻、レコード（含 音楽CD）11,376枚、光ディスク（CD-ROM、DVD-ROM等）8,767枚等でした。

過去5年間の受入数の変遷を見ると、伸びが目立つのは映像資料で、ビデオディスクは約9倍、ビデオカセットは約4倍となっています。平成12年10月以降に納本対象になったパッケージ系電子出版物（映像資料、録音資料、機械可読資料）のおもな品目と図書について、受入数の伸びの様子を図に示しました（伸び率は、平成11年度の数を100とした割合で表しています）。

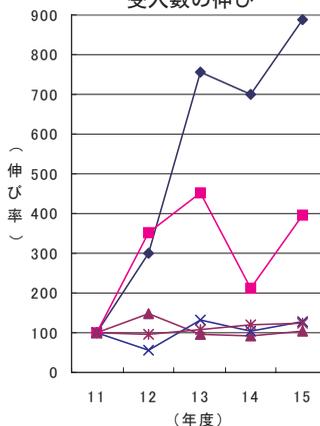
なお、海外の電子ジャーナルに関して9件の利用契約を行い、平成15年度末で約10,000タイトルが提供できるようになっています。

## ＜電子図書館の蔵書＞

当館ホームページから直接電子媒体の資料が閲覧できる「電子図書館の蔵書」には、インターネット資源選択的蓄積実験事業（WARP）、近代デジタルライブラリー、貴重書画像データベースがあります。それぞれ平成14年11月、同10月、平成12年3月から公開しています。

WARPは、ネットワーク系電子情報資源を収集・組織化・蓄積する実験事業で、平成15年度末までに、権利者の許諾を得て、電子雑誌コレクション1,029タイトル、ウェブコレクション（政府機関・協力機関）367タイトルを蓄積しました。いずれのタイトルも再収集ごとの蓄積データの伸びが大きく、全体のコレクション容量は約459GB、平成14年度末の14倍にもなっています。近代デジタルライブラリーは、当館所蔵の明治期刊行図書の画像データベースですが、平成15年度には約12,000タイトル（17,000冊）を追加し、年度末時点での公開資料数は約32,000タイトル（50,000冊）となりました。貴重書画像データベースは平成11年度末から公開していますが、15年度には和漢書50件、錦絵21件を追加して、収録件数が和漢書243件、錦絵526件、画像の数は30,000コマを超えています。

図 過去5年間の資料群別  
受入数の伸び



# 国立国会図書館年報（平成15年度）から

## － 統計を中心に その1 －

国立国会図書館では、前年度の活動報告と基本統計を収録した『国立国会図書館年報』を毎年刊行しています。年報は、国会に提出するとともに、国内の主要な図書館等に配布し、平成14年度版からは当館ホームページにも掲載しています。

平成15年度は、当館にとって、平成14年度に実現した関西館の設置、国際子ども図書館の全面開館、「電子図書館基盤システム」の稼働などの大きな変革を定着させるとともに、本誌ですすでご紹介した「国立国会図書館ビジョン2004」（520号）、「国立国会図書館電子図書館中期計画2004」（519号）を策定するなど、次の飛躍へ向けて歩を進めた年でした。

ここでは、まもなく刊行される平成15年度版年報の統計データをもとに、平成15年度における当館の活動状況をご紹介します。今号ではサービス提供を支える蔵書の構築と書誌情報の提供、そして国会に対するサービスについて、次号では行政司法各部門に対するサービスと一般公衆に対するサービスを中心に取り上げます。

### 蔵書の構築と書誌情報の提供

#### < 蔵 書 >

当館では、国内外の資料を幅広く収集し、蔵書の充実に努めています。平成15年度末の当館の蔵書は、図書800万冊、逐次刊行物18万種を超えました。それぞれの内訳と非図書資料の所蔵数は表1のとおりです。

表1 資料所蔵統計

#### (1) 図書

和	漢	書	5,841,221
洋		書	2,303,970
計			8,145,191

#### (2) 逐次刊行物

(単位)

国刊 内 逐 次 物	雑	誌	117,580 (1,975)
	新	聞	8,615 (1,991)
	計		126,195 (3,966)
外刊 国 行 逐 次 物	雑	誌	55,456 ( 352)
	新	聞	1,583 ( 172)
	計		57,039 ( 524)
合 計			183,234 (4,490)

(2)の( )内は、非図書形態の種数。

(3)の博士論文は、国内の博士論文。

#### (3) 非図書資料

マイクロフィルム (巻)	412,097
マイクロフィッシュ (枚)	7,262,149
マイクロプリント (枚)	300,108
ビデオディスク (枚)	34,372
ビデオカセット (巻)	6,976
スライド (枚)	122,728
レコード (枚)	502,448
カセットテープ (巻)	24,170
オープンテープ (巻)	23,215
磁気テープ (巻)	81
磁気ディスク (枚)	1,605
光ディスク (枚)	43,686
ICカード (枚)	326
地 図 (枚)	442,742
“ (冊)	41,344
楽 譜 (枚)	9,714
“ (冊)	2,214
カード式資料 (枚)	20,237
静止画像資料 (枚)	91,560
博士論文 (人分)	422,279
文 書 類 (点)	261,369
新聞切抜資料 (枚)	2,009,226
点字・大活字資料 (冊)	23,599
そ の 他 (点)	2,827



DBFの展示

いる関係で、図書館のPR活動に積極的に取り組む必要があり、展示もその一環と位置付けられよう。また、LCとNYPLでは、展示のほかに、図書館の来歴、活動、社会的意義を魅力的なプログラムにまとめたビデオも常時放映されていた。

当館も、「日本の記憶」と題し、特色ある所蔵資料を用いて、わが国の歴史や文化に関する電子展示会を開催している<sup>注4</sup>。

中でも、日本国憲法の制定過程をテーマと

した「日本国憲法の誕生」や、四つの重要文化財を始め、和古書、漢籍、錦絵や絵巻物など約100点の貴重書・準貴重書を見ることができる「デジタル貴重書展」は非常に多くの方にご覧いただいている。また、今年7月に公開された「近代日本人の肖像」では、近代日本の形成に影響のあった、各界の著名人約200人の肖像写真を紹介している。そのほかにも、東京本館では本館の回廊部分に設置された展示コーナーにおいて、さまざまなテーマの展示が開催されている。今後も、各種資料や主題についての専門性や、魅力ある情報発信を可能とする企画力などを備えた人材を育成し、各種展示を充実させていくことが重要であると思われる。



NYPLの展示

注1 <http://www.bl.uk/collections/treasures/digitisation2.html>

注2 <http://www.loc.gov/exhibits/churchill/>

注3 <http://www.nypl.org/research/calendar/exhib/hssl/hsslexhibdesc.cfm?id=351>

注4 <http://www.ndl.go.jp/jp/gallery/index.html>

\* いずれも最終アクセス日は、2004年8月13日

(資料提供部雑誌課 ひさなが しげひと)

#### 4. ニューヨーク公共図書館 (New York Public Library、以下 NYPL)



NYPL は、四つの調査研究図書館と80を超える貸出図書館から構成されている。公共図書館と呼びならわされているものの、財政的にはニューヨーク市からの資金と、寄付を始めとする民間からの資金を大きな柱としている点でわが国の公共図書館とは趣を異にしている。また、ビジネス支援や、利用者向けに幅広い分野にわたる各種講座を開くなど、従来の図書館の概念を打ち破るサービスを提供しており注目を集めている。本稿では、本

館にあたる人文社会科学図書館 (Humanities and Social Sciences Library、以下 HSSL) における資料の利用についてご紹介する。

調査研究図書館は、閉架式で資料を館外に持ち出すことはできない。貸出図書館は、資料の貸出しサービスを行う一般的な公共図書館である。利用カードは調査研究図書館用と貸出図書館用の2種類がある。調査研究図書館用は、ニューヨーク州の在住者等でなくても誰でも無料で作成できる。貸出図書館用は、ニューヨーク州の在住者等であれば無料で作成することができる。その他の者は所定の料金を支払うことで貸出図書館用の利用カードを入手できる。

建物の入り口を入るとすぐに警備員による所持品検査を受ける。また、閲覧室への出入りの際にも、常駐している警備員が所持品のチェックを行っている。

HSSL などの調査研究図書館は閉架式なので、利用者は閲覧室に設置された OPAC と各種目録類を利用して書誌事項を確認し、紙の請求票に必要事項を記入して資料請求を行う。1 回に 3 件まで申し込むことができる。申し込んでから資料を受け取るまで約50分かかるが、電話や電子メールで資料を事前に申し込むことができるようになっている。

閲覧室では、備付けの端末で OPAC や各種データベースの検索ができるほか、持参した PC を自分の席のコネクターにつなぐことで OPAC やデータベースにアクセスできるようになっている。

#### 5. その他印象に残ったこと

最後に、その他として、訪問した各図書館ですばらしい展示が行われていたことをご紹介します。

DBF では、アインシュタインに関する特別展示をエルサレムのヘブライ大学と協力して行っており、多くの見学者が訪れていた。BL では、マグナ・カルタ、ダヴィンチの構想ノートやヘンデル、バッハ、モーツァルトらの手書きの楽譜といった宝物が常設展示で見られるほか、特別展示として外部の機関と共同で中国の版画展が開催されていた。また、タッチパネルによって、電子化した資料を実際にページを繰る感覚で閲覧できる Turning the Pages<sup>※1</sup> という展示も興味深かった。LC では、チャー

といった主題別の閲覧室がある。入り口には警備員がおり、入室の際に利用者カードを確認し、退室する時は資料が持ち出されていないか所持品をチェックしている。

各閲覧室には、OPACの端末が多数設置されていて、利用者はOPACを使って資料の検索と申込みを行うことができる。出納には約50分かかるが、その代わりに、電子メールや電話・FAX等によって事前に資料を請求できるようになっている。1日に申し込める上限は15回までで、雑誌類は一度に6巻まで申し込むことができる。館内での出納には比較的時間がかかるが、館外からの取寄せはスピーディだといえる。例えば、書庫スペース等の関係でロンドン市内の倉庫に保管されている資料を申し込んだ場合、早ければ2、3時間後には利用することができるという。ポストン・スバに保管されている資料でも、午前中に申し込めば、翌日にはロンドンに届けられるようである。

各閲覧室には、OPAC 端末とは別に各種データベース検索用のPCが設置されており、数百に上るデータベースにアクセスできる。また、それらのPCからはインターネットにも接続できる。ただし、電子メールの送受信はできないよう設定されている。

### 3. 米国議会図書館 (Library of Congress、以下 LC)



LCは、議会のための調査研究図書館として1800年に設立された。1815年にジェファーソン元大統領から譲り受けた約6,500冊の本を礎とするLCの所蔵資料は、現在、1,900万点の図書、960万点の雑誌・新聞類を始めとして、約1億2,400万点に上る膨大なものとなっている。

建物に入るとすぐに警備員によるセキュリティチェックが行われ、利用者のみならず展示等の見学者も、入り口での金属探知機や、手荷物のX線検査なしでは

中に入ることができない。また、閲覧室への出入りの際にも、常駐している警備員が利用者カードの確認と所持品のチェックを行っている。

閲覧室を利用するためには利用者登録が必要となる。申請用紙とコンピュータ画面に名前、住所、調査テーマといった所定の事項を記入・入力し、身分証明書を提示すれば15分程度で利用者カードを作ることができる。

利用者は、閲覧室に設置されたOPACと各種目録類を利用して書誌事項を確認し、紙の請求票に必要事項を記入して資料請求を行う。申込制限は閲覧室によって異なるが、例えば、大閲覧室(Main Reading Room)では1時間に5件まで申し込むことができる。出納に要する時間は約50分で、指定した席に職員が持ってきてくれる。15件を上限として、前日に資料の事前申込みをすることもできる。また、遠方からの利用者や一度に大量の資料を閲覧しなくてはならない利用者に対して、事前に連絡をすれば職員が資料を用意しておくサービスも用意されている。

閲覧室のOPACからは蔵書検索のほか、インターネットへのアクセスや、電子ジャーナルの利用もできるようになっている。

れ変わった。

DBFは、有料制の図書館である。利用者は、利用料（1年36ユーロ、1か月13ユーロ、1日5ユーロ）を支払い、利用者カードを入手しなくてはならない。18歳以上の者で、パスポートや身分証明書を提示した上で所定の申込書を提出すれば、カードを作ることができる。所要時間は15分程度である。なお、このカードにはICチップが埋め込まれており、一定の金額を「チャージ」することで、複写料金の支払いにも使用できる。

館内には約40台のオンライン閲覧目録（OPAC）が設置されており、利用者はOPACで読みたい資料を検索し、OPAC経由で資料の申込みをすることができる。1日に申し込めるのは6件で、冊数にして10冊までである。利用者からの申込みは、1時間に1回まとめて書庫に送られるということもあり、申し込んでから資料を受け取るまで1時間半から2時間近くかかる。その代わりに、OPAC経由、あるいは電話や電子メール等を用いて、事前に資料の申込みができるようになっている。

おもにパッケージ系電子出版物（CD-ROM）を閲覧するためにマルチメディア・ルームが設けられており、600タイトル近くのCD-ROMをインストールしたPCが約40台設置されている。インストールされていないものを閲覧したい場合は、その旨を職員に申し出ればインストールしてもらうことができる。オンラインの電子ジャーナル等は提供していないが、電子納本図書館という実験的事業として400以上の電子ジャーナルの収集等を行っており、利用者はそれらの資料にアクセスすることができる。また、有料（1日5ユーロ）ではあるが、インターネットへの接続も可能である。

## 2. 英国図書館（British Library、以下BL）



BLが国立図書館として機能し始めたのは、1973年のことである。大英博物館の図書館部門やロンドンの国立中央図書館（National Central Library）、ポストン・スバの国立科学技術貸出図書館（National Lending Library for Science and Technology）等が機能的に統合されBLを構成することになった。その後、書庫スペースの不足を解消するため、新たに図書館を建設する計画が立てられ、1998年、新聞図書館等の一部を除

いて文字どおりの統合が実現し、セント・パンクラスの地に新装開館した。

展示スペース、レストラン、土産物店等は公共スペースとして誰でも自由に入出ることができる。しかし、閲覧室で資料を利用するためには、利用者登録をして利用者カードを入手する必要がある。利用者登録窓口を設置された端末に、氏名、住所、調査テーマといった所定の事項を入力して、身分証明書を提示すれば15分程度で利用者カードを作ることができる。

BLには、人文、科学技術・ビジネス、貴重書・音楽、東洋・インド、地図、手稿

(海外出張報告)

## 欧米で見た来館利用者サービスの今 — 入館から閲覧までの流れを中心に —

久永 茂人

平成16年3月7日から22日の日程で、欧米主要図書館における来館利用者サービスや、傷んだ資料のマイクロ化・電子化への取組み、また、いわゆる利用者教育の実際を調査するために、フランクフルトのドイツ図書館、ロンドンの英国図書館、ワシントンの米国議会図書館、ニューヨークのニューヨーク公共図書館を訪問する機会を得た。本稿では、各図書館の来館利用者サービスのうち、入館、資料の申込みから閲覧までの具体的な流れを中心にご紹介したい。

はじめに、四つの図書館で共通して見られたことをいくつか挙げる。まず、利用者が資料を申し込んでから手にするまでの所要時間は、おおむね1時間程度である(当館では約20～30分)。その代わり、インターネット、電話、FAX等で来館前に資料の申込みをすることができる(当館では、関西館で登録利用者に対し閲覧予約のサービスを行っている)。また、4館とも館内に設置されたPCから、インターネットに接続できるようになっている。インターネットの利用は調査目的に限定されているが、不良サイト等へのアクセス制限等は設定されておらず、利用者のモラルに任されている。

そして、非常に厳重なセキュリティ対策が採られているのも各図書館で共通している。施設の安全対策のほかに、ドイツ図書館以外では、各閲覧室へ出入りする際に、必ず屈強な警備員が利用者カードの確認と所持品のチェックを行い、利用者は資料を持って閲覧室の外に出ることはできないようになっている。また、閲覧室にはコートや鞆を持ち込むことができず、それらをクロークに預けることが徹底されている。当館では、資料保全のため警備員の巡回、ポスターによる警告等の対応を採っているが、今後のセキュリティ対策を考える上で参考になると思われる。

以下、各図書館について個別に記すこととしたい。

### 1. ドイツ図書館 (Deutsche Bibliothek Frankfurt am Main、以下DBF)

ドイツには三つの国立図書館がある。フランクフルトのDBF、ライプチヒのDeutsche Bücherei Leipzig、そしてベルリンのドイツ音楽資料館(Deutsches Musikarchiv Berlin)がそれである。フランクフルトのDBFは旧西ドイツの、ライプチヒのDeutsche Bücherei Leipzigは旧東ドイツの国立図書館として機能していた。東西ドイツの統合に伴い、1990年、これら3館が国立ドイツ図書館(Die Deutsche Bibliothek)として生ま



## ■国際子ども図書館講演会のお知らせ

本にえがかれた動物展Ⅱ—十二支を手がかりに—Animals in children's books II: the Chinese zodiac as keyword に関連して次のとおり講演会を開催いたします。

テーマ：「人はなぜ動物絵本を読むのか」

- ・日時：平成16年11月6日(土) 午後2時から
- ・場所：国際子ども図書館 3階ホール
- ・講師：矢野智司氏(京都大学大学院教育学研究科教授)

うさぎ、くま、ねずみ、絵本の中にたびたび登場し、親しまれている動物たち。しかし、なぜこれほどまでに動物が繰り返し描かれるのでしょうか。

この小さな謎のなかに、人間とは何かという大きな謎を解く秘密が隠されています。

動物絵本を読み解くことから、動物の存在は人間にとってどのような意味を持っているのかについてお話させていただきます。

- ・申込方法：事前申込制です。詳細は、国際子ども図書館ホームページ(<http://www.kodomo.go.jp/>)をご覧ください。

### ○展示会案内

開催期間：平成16年9月18日(土)  
～平成17年4月10日(日)

休館日：月曜日、国民の祝日・休日、年末年始(12月28日～1月4日)、資料整理  
休館日(毎月第3水曜日)

開催時間：午前9時30分～午後5時

会場：国際子ども図書館3階  
本のミュージアム

※今回の展示会では、図録を刊行しました。



図録

『本にえがかれた動物展Ⅱ』

# 本を魅せる 常設展示案内 (9)



## 第133回常設展示 ユートピア—どこにもない場所—

平成16年10月1日～11月16日

ユートピアは、トマス・モアによる造語で、「どこにもない場所」を意味します。同時に、「幸福な場所」という意味も含んでいるそうです。モアによって『ユートピア』が著される以前から、人々は理想の場所や社会を想像し、描き出してきました。プラトンの『国家』や旧約聖書のエデンの園、そして中国の桃源郷や浦島の竜宮城など、政治・経済・家族のあり方が具体化された理想社会から、空想的な楽園まで、人々は洋の東西を問わず、広く理想の場所について思いめぐらせてきました。

しかし、一括りに“ユートピア”と言っても、そのイメージは、洋の東西で大きく異なっています。東洋のユートピアが曖昧で楽園的なものであるのに対し、西洋のユートピアは、それぞれの時代の影響を受けながら、社会への批判を込めると同時に、理想の実現に必要な具体的な要素が詳細に描かれたものが中心となっています。それらは、単なる夢物語ではなく、次の時代に希望をつなぐものとして機能し、時代の変革に寄与してきました。

近代国家が成立する以前の16、17世紀頃、モアやカンパネッラが示した理想の国家像は、平等で秩序ある社会を目指したものでした。彼らの考えは、次の時代の市民社会へとつながっていきました。他方、17世紀前半にベーコンが著した『ニューアトランティス』は、ルネサンス後期の科学万能思想に支えられて、科学の進歩が「明るい未来」をもたらすという確信に満ちたものです。

それから約300年後の20世紀前半、ベーコンが夢見た科学技術による理想社会が実現しつつあった頃、ハックスリーの『すばらしい新世界』やオーウェルの『1984年』などの作品が著されました。これらの作品は、科学の進歩や管理主義的な社会をもたらす、「明るくない未来」を暗示しました。しかし、1960年代には、こうした未来像に抵抗するかのよう、既成の価値観を否定するヒッピーが現れました。彼らは「ラブ&ピース」を掲げて独自のスタイルで生活し、自分たちのユートピアを模索しました。

さて、2004年、現在。私たちは、次の時代に希望をつなぐものとして、どのようなユートピア像を描けるのでしょうか。

今回の展示では、ユートピアの系譜をご紹介します。実在しないユートピアという概念を視覚でも楽しんでいただけたらと思います。



ユートピア島

T.モア『ユートピア』

<請求記号 F 33-Mo43ウ>



おくだ ともこ にしもり みつこ  
(奥田 倫子・西森 光子)

## 国際子ども図書館

〒110-0007 東京都台東区上野公園12-49

電話 03 (3827) 2053

ホームページ <http://www.kodomo.go.jp/>

国際子ども図書館は、国立国会図書館の支部図書館として内外の児童書とその関連資料に関する図書館サービスを国際的な連携のもとに行います。

### 館内利用サービス

**利用できる人** 誰でも利用できます（ただし資料室は18歳以上）。

**資料の利用** 館内利用のみ。館外への帯出はできません。

**開館時間** 9:30～17:00

**休館日** 月曜日、国民の祝日・休日（5月5日こどもの日は除く）、年末年始（12月28日～1月4日）、資料整理休館日（第3水曜日）

**休室日** 休館日以外に次の日が休室となります。

2階第1・2資料室：日曜日

3階本のミュージアム：展示会準備期間

## 支部東洋文庫

〒113-0021 東京都文京区本駒込2-28-21

電話 03 (3942) 0122（代表）

東洋学の発展を目的とする専門図書館。

アジア全般にわたる資料・研究書を所蔵しています。

---

国立国会図書館月報

平成16年9月号（No.522）

発行所	国立国会図書館	平成16年9月20日発行	定価231円 (税込、送料別)
編集 責任者	塚本 孝	印刷所 発売元	有隣堂印刷株式会社
〒100-8924	東京都千代田区永田町一丁目10番1号 電話 03 (3581) 2331 (代表) FAX 03 (3597) 5617 E-mail <a href="mailto:geppo@ndl.go.jp">geppo@ndl.go.jp</a>	〒140-0004	東京都品川区南品川六丁目2番10号 電話 03 (5479) 8721 (代表) FAX 03 (5479) 8720 E-mail <a href="mailto:cap15650@pop01.odn.ne.jp">cap15650@pop01.odn.ne.jp</a>

---

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜き差しして転載される場合には、事前に当館総務部総務課に連絡してください。本誌517号以降、PDF版を当館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp> — 「刊行物」 — 「国立国会図書館月報」) でご覧いただけます。

表紙 中性紙使用  
本文 中性再生紙使用

NATIONAL DIET LIBRARY MONTHLY BULLETIN

No. 522 September 2004

CONTENTS

*Choshuken Gyorinsatsu Kokijugonen Joryo*  
(Random notes on rare books, 439)  
To preserve the irreplaceable documentary heritage at the foot of  
the Himalayas: official trip to Nepal  
..... Takao Murayama ..... 1

Training programs for the staff of the Nepal National Library:  
a collaborative project of the Japan International Cooperation  
Agency (JICA) and the IFLA/PAC Regional Center for Asia  
..... Masaki Nasu .....10

Tidbits of information on NDL .....12

Announcement of regular exhibition.....12

The Collaborative Reference Database Project: second call for  
participating libraries .....13

<Invitation>  
International seminar "Document delivery service in the  
age of digital information: vision and strategy" .....17

<Announcement>  
Tokyo Main Library's New Calendar — opening hours and  
library holidays.....18

A new series "Digital Library" will start soon! .....18

Books not commercially available .....19

NDL news .....20

Monthly official report .....21

Publications from NDL .....21

Excerpts from the Annual Report of the NDL, FY2003:  
statistics (1) .....25

(Report of official trip abroad)

Library service for on-site users in the United States and  
Europe: visiting procedures and use of library materials  
..... Shigehito Hisanaga .....30

International Library of Children's Literature page .....31

Utopia, the "nowhere" (Enchanting world of books - Guide to  
regular exhibitions, 9) .....32

NATIONAL DIET LIBRARY  
Tokyo